

令和元年六月十六日 第十号



岩國白蛇神社崇敬会会報

◎今年（一～五月）に斎行された祭典と行事

【月次祭】平成三十年度～令和元年度

〈一月〉八日・二十日

〈二月〉一日・二十五日

〈三月〉九日・二十一日

〈四月〉二日・二十六日

〈五月〉八日・二十日

※参列者の延べ人数は八十名でした。

【一月】平成三十一年

歳旦祭（一日）・元始祭（三日）

【二月】

節分祭（二日）・紀元節祭（十一日）

祈年祭（十七日）

【三月】

ひな祭（三日）・東日本大震災慰霊並びに復興祈願祭（十一日）・天皇陛下御即位三十年奉祝祭（二十一日）

【四月】平成三十一年度

第九回総代会（二十日）・子どもの集ひ

（二十七日）・昭和祭（二十九日）

天皇陛下御譲位御安泰祈願祭（三十日）

【五月】令和元年

天皇陛下御即位奉祝祭（二日）

今津山手しろへび祭（十九日）

【元日】一月一日（火）



平成三十一年の年明けも晴天に恵まれ、たくさんの方の初詣で境内は賑わいました。早朝から夕方まで行列が続きました。特に今年は御朱印を受けられる方が多く、三が日で五百件近くあったのではないでせうか。九時半からの歳旦祭では「鈴舞」の奉納をし、崇敬者・参詣者方々の無病息災・開運招福を祈念しました。

【天皇陛下御即位三十年奉祝祭】

三月二十一日

当日は月次祭（巳の日）に続けて、奉祝祭を斎行しました。祝詞奏上に続き、奉納では今の上皇陛下の御製八首を参列者全員で奉唱し、神前神楽は「御稜威の舞」を巫女二人が舞ひ納めました。

四月三十日には、天皇陛下御譲位御安泰祈願祭を、五月一日には、天皇陛下御即位奉祝祭をそれぞれ斎行しました。両日とも多くの参詣者で境内は賑わいました。新たな令和の御代をこぞつてお祝ひすることができました。



【「神社本庁史稿」解説】(五)

〔社報「しろへび」から〕

(VI) 神社本庁の功績

(2)戦没者の合祀と国家護持運動

G H Qの靖国神社への敵視が尋常でなかったことは、靖国神社を焼却する計画があつたことでもわかります。意見を求められた駐日ローマ法王代表・バチカン代理公使のブルーノ・ビッテル神父の『戦没者に敬意をはらふのは当然のことであり靖国神社を焼却するといふ暴挙が極めて不名誉なことになる』の回答によつて、焼却といふ最悪の事態は免れることになりました。しかし、国民と靖国神社の精神的なつながりを断ち切らうとする施策は、着実に進められ、今日においてもその残滓は一部の近隣諸国や日本人にもあることは、承知のことと思ひます。

昭和二十七年四月二十八日、サンフランシスコ平和条約の発効により、わが国は主権は回復したけれども、六年八ヶ月の長期にわたる占領の影響は計り知れませんでした。その中でも靖国神社に合祀されてゐない戦没者が、二百万人近く存在してゐたことです。その戦没者の合祀の為に創立されたのが、靖国神社奉賛会です。その奉賛会の会長には崇敬者総代の北白川祥子様、顧問には総理大臣・衆参両院議長・閣僚が就任しました。そして、理事には都道府県知事・都道府県議長が名を連ねました。将に政・官・民一体となつた組織でした。募金活動も行はれましたが、最終的には七億五千万円の浄財が集まりました。

合祀については、当時の厚生省が全面的な協力をしました。それは、公費を出すことはできませんでしたが、遺族援護行政を所轄する立場において、各都道府県に対して靖国神

社の合祀事務に関して協力する要請を出したのでした。合祀事務(祭神名票)は、厚生省と都道府県と靖国神社が一体となつて進められたのは、国民の熱い要望が背景にあつたことは論を待ちません。よつて、何の問題もなく合祀は昭和四十六年まで続けられました。

そして、この合祀の活動が、靖国神社国家護持運動の機運を一層盛り上げたのでした。国のために殉じた戦没将兵を国家が慰霊することは、どの国においても当然のこととして行はれてゐることで、当時の日本も国家護持の国民世論は圧倒的でした。

「靖国神社国家護持法案」の上程と成立を中心となつて推進したのは、神社本庁と日本遺族会でした。「靖国神社国家護持貫徹国民協議会」(靖国協)が結成され、昭和四十四年六月には法案が初めて国会に提出されました。

(3)靖国神社国家護持とその後

靖国神社を国家が責任を持つ「国家護持」は二千万人以上の署名によつて、前後六回にわたつて国会に提出されました。その六回目の昭和四十九年四月、この「靖国法案」は衆議院の内閣委員会を自民党の単独採決により可決通過しました。しかし、ここにおいて、衆議院法制局の『靖国神社法案の合憲性』と題する見解が出回り、「名称は踏襲するが、宗教性を帯びない性格のものにする」といふ、神道祭祀無き国家護持にするといふとんでもないものでした。それに対して自民党もはつきりとした見解を述べず、国民の悲願は台無しになつてしまひました。

勿論、野党・労働団体・宗教団体・マスメディア等による猛烈な反対運動もあり終に廃案となりました。当初より、靖国神社創建以来の祭祀伝統が損なはれることに断固反対の

姿勢であつた神社本庁は、国家護持は困難と判断せざるをえませんでした。

一昨年、靖国神社に戦後七十年を記念して正式参拝をした折りの靖国神社の禰宜のことばが思ひ出されます。「私たちはこの靖国神社を国家から一時的におあづかりしてゐるといふ気持ちで日々奉仕してゐます。」

「靖国神社国家護持貫徹国民協議会」は、新たな国民運動を目指すことになりました。名称も「英霊にこたえる会」となり、英霊に対する国・国民のあるべき姿勢を確立するための国民運動を展開することを目的とし結成されました。昭和五十三年から、首相並びに閣僚の公式参拝実現を求める署名活動を始め、全国で一千万名の署名を集める成果を収めました。

(4)首相の靖国神社公式参拝

一国の総理大臣が、自国の戦没者慰霊の中心的施設の参拝に内政干渉されるといふ異常はいつまで続くのであらうか。

実は、昭和二十六年サンフランシスコ講和条約調印後、春秋の例大祭を中心に首相の靖国神社参拝は半ば恒例化し、吉田茂首相から中曽根首相まで十人の首相が延べ五十六回参拝してゐます。その間諸外国からとやかく言はれることは皆無でした。

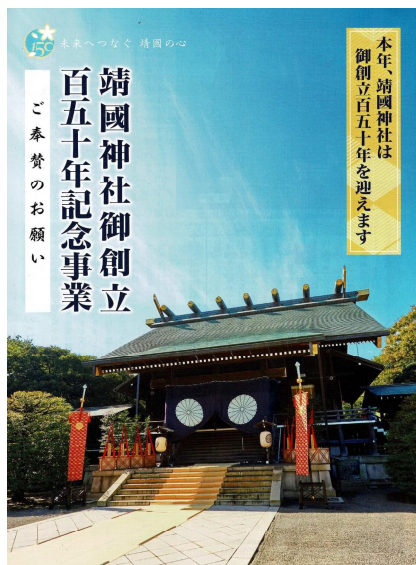
―私的・公的参拝―

首相の中で初めて終戦記念日に参拝したのは昭和五十年の三木首相でした。その際に私的参拝であると表明して以降、首相の参拝が私的か公的かを問はれることになりました。

三木首相は、終戦記念日の八月十五日の武道館での「全国戦没者追悼式」と「千鳥ヶ淵戦没者墓園」には公人として、靖国神社は私人というふ、奇妙なことを行つた人でした。戦後三十年のこの年には、昭和天皇は靖国

平成28年から奉賛を呼びかけてあります。

戦後七十年以上が経過し、英霊と直接ご縁のあるご遺族・戦友各位が年々減少の一途を辿る中、国を思ひ、祖国を愛し、家族を慈しみつつ散華された英霊の御心を次の世代へ伝えていくことこそ、戦後に生きる私どもの責務として、この記念事業を是非とも成功させなくてはなりません。



神社に御親拝されました。
昭和五十三年八月十五日には三木首相の後継者である福田赳夫首相が靖国神社に「私人」として参拝。
昭和五十七年中曽根内閣が誕生し、同首相は靖国神社参拝には積極的でした。春秋の大祭、終戦記念日、正月にも参拝しました。しかし、昭和六十年九月に中国から「A級戦犯を祀る靖国神社に公式参拝したのは、中国はじめアジア諸国の人民の感情を傷つけるもの」との非難の声があがったのです。
《続く》

『御製碑の建立に決定』

当崇敬会は、三月二十三日に役員会（六名）を開催し、三つの案の中から左記に示す理由により、御製碑の建立が最も相応しいと全会一致で決定致しました。
尚、建立の場所は、正面東側御神木楠木の側となりました。御製は、

津波来し時の岸辺は如何なりしと
見下ろす海は青く静まる

《建立の趣旨》

今年は御代替わりの大きな節目の年です。平成の御代に創建された当神社としては、忘れ得ぬ大きな出来事であった東日本大震災をわが事として、次の世に語り継ぐことも一つの役目でありませう。
『これはいつかあったこと、これはいつかあること』としてより多くの参詣者にしつかりと記憶して貰いたく切に望むところ です。

御祭神（宗像三女神）は、海原の平穏を護る神々でもあります。この今津の地に鎮座する神社の境内に、この御製碑を見出すことの意義は決して小さくはないでせう。

この御製は平成二十四年の歌会始で発表されました。奇しくもこの年の十二月に当神社は創建されました。
願はくは、参拝時にこの御製碑にふれ、心の片隅に宿していただければ幸ひであります。

白蛇神社崇敬会会員の増員にご協力ください。

令和元年五月末現在の会員数

- ・ 個人会員；199名
- ・ 法人会員；16団体

総計；215

【お知らせ】

令和元年度崇敬会役員会の開催を予定してあります。

・ 七月十三日（土）

十一時より

・ 社務所二階にて
※役員の方にはご連絡します



御製碑の建立予定地となつてゐる所。後ろは楠木の御神木です。



【社報で推薦した図書一覽】

○「和歌・漢詩 明治維新百人一首」

不二歌道会編・発行

○「日本国紀」

百田尚樹著 幻冬舎出版

○『日本国紀』の副読本

百田尚樹・有田香著 産経セレクト

○「靖國の精神史」

日本人の国家意識と守護思想

小堀桂一郎著 PHP 新書

○「いのちの賛歌」

自らの人生を切り拓いた 8 人の物語

神渡良平著 致知出版

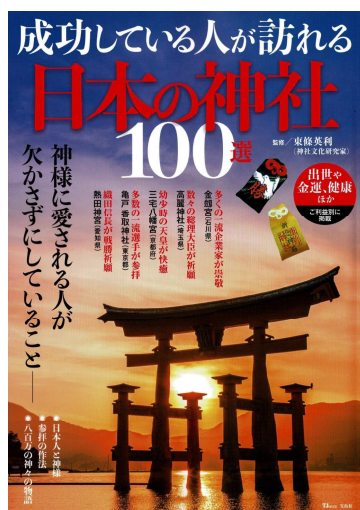
○「志が人と組織を育てる」

グルメ回転寿司「銚子丸」が吉田松陰から学んだ理念

堀地速雄・神渡良平著 廣済堂出版

【全国に知られるやうになりました】

一昨年から週刊誌（「女性セブン」）に当神社が紹介されてから次々と各社に掲載されるやうになりました。婦人公論の本「開運パワースポット・ガイド」や宝島社の「成功している人が訪れる日本の神社」、主婦の友生活シリーズから「厄除け・開運・パワースポットニッポンの神社」そして、旅行専門誌びあからは「西日本御朱印めぐり開運さんぽ旅」で紹介されました。そのお陰と思ひますが、この



四月末から改元に伴う連休では、約六五千人が訪れた。

千人の参詣者がありました。御朱印帳に至っては、およそ一七〇〇件ありました。北海道や沖縄からもお参りがありました。有り難く、感謝の至りです。



七夕の夕べ（ご案内）

～雅楽と神楽の演奏会～

・七月六日（土）午後六時開演

・会場 岩國白蛇神社

入場無料

■雅楽の部

「五常楽急」

「見上げてごらん夜の星を」

■神楽の部

「榊舞」「浦安の舞」「御稜威の舞」

「靖国の舞」

主催・岩国雅楽会



昨年の演奏会の様子
（明治維新 150 年記念神楽祭）

